



中 千 紫 万 紅

久慈市立長内中学校
校報「千紫万紅」
第 3 号
令和8年6月4日発行

新生・長内中学校の確かな一歩

～統合して初めての
運動会は大成功～



■ 新生・長内中の輝き ■

5月15日(金)に、長内中学校運動会を開催しました。今年度の運動会は、三崎中学校との統合後、初めて行われる記念すべき運動会でした。「全力疾走」のスローガンのもと、青組・黄組・赤組それぞれが仲間と力を合わせ、競技や応援に全力で取り組む姿は、本当に輝いて見えました。

また、閉会式終了後に、勝ち負けを超えて互いの健闘を称え合う長中生の姿にも感動しました。新生・長内中学校の歴史に確かな一歩を刻むことができたことを心から嬉しく思います。

■ 受け継がれる長中魂 ■

この日に向けて、3年生は「どうすれば1・2年生を引っ張っていけるか」と本気で考え、試行錯誤を重ねながら準備を進めてきました。思うようにいかず、ぶつかり合ったこともありました。しかし、その葛藤が人間の器を大きくしてくれたことを忘れないでほしいと思います。

1・2年生も、3年生を支えるフォロワーとして頑張りました。きっと、3年生の姿から、先頭に立つ者の責任感と行動力を学んだことでしょう。長中魂のバトンを、しっかりと受け継いでいってほしいと思います。

■ 自ら創る楽しさ ■

今回の運動会の取組がいかに楽しいものであったかは、終了後の組団記念写真で見た生徒たちの笑顔が物語っていました。その楽しさは、ゼロから自分たちで話し合っで決め、試行錯誤しながら仲間と協働して取り組み、成功させたからこそ味わえた楽しみです。言い換えれば、誰かが用意してくれた楽しさではなく、自分たちで創り上げた楽しさです。この取組を通して、多くの子どもたちが「自分たちで決めて自分たちで実行することが、いかに楽しいことであるか」を学んだことと思います。

次にある大きな全校行事は、10月の文化祭です。そのとき、子どもたちは、どんな成長を見せてくれるのか。乞うご期待です。

3年生の「振り返り作文」から(一部抜粋)

- ・ 協力することって難しいけど、本当に楽しいなと思いました。理由は、運動会は他学年と交わることが多くて難しいけど、できて成功した時は本当に楽しくて、頑張ってたよなと思えるからです。
- ・ 一部の人たちが頑張るのではなく、みんなで気持ちをそろえ、声を掛け合うことが大切だと改めて感じました。周りを見て不安になったり焦ったりすることもあるけれど、落ち着いて自分達にしかできないことを精一杯やり切れば、良い結果につながると思います。
- ・ 焦りから、リーダーたちが涙を流すこともありました。しかし、「最後の運動会なんだから笑って終わりたい」という言葉をきっかけに、放課後も自分たちで話し合い、作戦を練り直しました。何度もぶつかり合い、試行錯誤を繰り返す中で組団の絆が少しずつ形になっていくのを感じました。
- ・ 残念ながら総合優勝はとれませんでした。沢山のことに挑戦したり、仲間と協力したり、一生懸命になったりしたことは、これからの生活に生かしていきたいし、最高の思い出になりました。
- ・ 3年生がマイナスに考えて暗い雰囲気をつくってしまうと、組団全体がかたくて緊張感のある雰囲気になってしまうので、「成功するためには、どうするか」とプラスに考えることの大切さを学びました。
- ・ みんなの気持ちが高まると頑張ろうと思えるようになり、一人で頑張るのとは違う力が生まれていると感じました。また、周りの声に合わせて自分も大きな声を出して応援できると、みんなで一つのことに向かって取り組めるって楽しいし、達成感が大きくなるんだということが分かりました。



大切な命を守るために！

～避難訓練(火災想定)を実施しました～



6月3日(水)に火災を想定した避難訓練を行いました。命を守るために冷静かつ迅速に非難することを目的に実施した訓練では、整然と落ち着いて行動し、校庭に移動することができました。

講評では、校長から「全国では毎年およそ500人以上の方が煙や有毒ガスの吸入によって亡くなっています。だからこそ、姿勢を低くして口をおおい、迅速に非難することが大切」という話をしました。

長内中学校では、これからも「いざというときに自分とみんなの命を守るための学習」を続けていきます。

編集後記

「組団ソーラン」——それは青、黄、赤の各組団がそれぞれ工夫を凝らし、思いを込めて創り上げたソーランの発表の場。長中運動会の伝統演目です。ハプニングは、その「組団ソーラン」の時に起こりました。▼青組団のパフォーマンスが始まって間もなく、CDプレーヤーが故障し、演舞が2回仕切り直しとなったのです。その間、約2分。不平や不満を見せてもおかしくない状況でした。それにも関わらず、青組団の生徒たちは集中力を途切らすことなく、最後まで見事にやり切ったのです。これには正直驚きました。▼この仕事を長くやっていると、生徒たちの凄さに「ヤラレター！」と思わされることが度々あります。今回もそんなワンシーンでした。おそらく、青組団でなくても、今の長中生たちなら同じような振る舞いを見せたのではないかと思います。▼さて、次はどんな「ヤラレター！」に出会えるのか。とても楽しみです。

【柏崎】